

静岡県

## 土地改良



○年頭のご挨拶（水土里ネット静岡 会長 伊東 真英）	1
○新年に当たって（全国水土里ネット 会長 野中 広務）	2
○平成 26 年度 秋の叙勲受章者の紹介	4
○平成 26 年度 静岡県農林水産功労者表彰	5
○第 37 回全国土地改良大会（山梨大会）の開催	6
○県営畠地帯総合整備事業蒲原地区及び 県営基幹農道整備事業蒲原地区 完成式	7
○水土里ネット静岡 活動報告等	
◇農業農村整備の集い	8
◇平成 27 年度 予算編成に対する要望活動	9
◇平成 26 年度 土地改良事業推進協議会西部地区合同研修会	10
◇平成 26 年度 土地改良区等職員研修会及び 土地改良施設管理技術者研修会	10
○お知らせ	
◇平成 26 年度 市町・土地改良区等代表者会議を開催します	11
◇土地改良施設の定期機能診断業務の実施	12
○農業農村まめちしき	12
○行事予定（1月～3月）	13



豊かな農村空間を創造する

みどり  
水土里ネット静岡  
静岡県土地改良事業団体連合会

## 年頭のご挨拶

水土里ネット静岡  
(静岡県土地改良事業団体連合会)  
会長 伊東 真英



平成 27 年の年頭に当たり、静岡県土地改良事業団体連合会の会員並びに関係者の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃は、本連合会の運営並びに諸事業の推進につきまして、多大のご理解とご協力を賜っておりますことに心よりお礼申し上げます。

さて、昨年 10 月には、台風 18 号が本県を縦断し、県内全域に甚大な被害をもたらしました。8 名の重軽傷者をはじめ、22 棟の住家が全・半壊や一部破損の被害を受け、1,800 棟を超える住家が床上・床下浸水の被害を受けました。また、法面崩壊による道路や鉄道の不通などの障害も発生し、県民生活に多大な影響を及ぼしました。

被害に遭われました皆様には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧を願ってやみません。

一方、世界初の青色発光ダイオードの開発に成功した本県浜松市出身の天野浩名古屋大学教授のノーベル物理学賞の受賞、日本銀行の大規模な金融緩和政策による景気回復の兆し、県内の企業立地件数の増加、官民が連携して防災・減災と地域振興の両立を目指す『内陸フロンティアを拓く』取組』の着実な推進など、明るい話題も多くありました。

こうした中、農業・農村の現状に目を向けてみると、農業従事者は高齢化する一方であり、急激な人口の減少や人口の都市集中による過疎集落の消滅が懸念されています。これに歯止めをかけるためにも、農業の担い手を確保し、農業の活性化、農業の再生を果たしていくことが求められています。

明治時代の農学の第一人者である横井時敬が残した「稻のことは稻に聞け、農業のことは農民に聞け」「農学栄えて、農業滅ぶ」の言葉に学べば、農業従事者の減少や耕作放棄地の増加、土地改良施設の老朽化等の現場で直面する課題を点検することが急務であると痛感しております。

新しい年を迎え、世界に評価される和食や美しい農山漁村の風景等を育んできた「水」、「土」、「里」の資源を保全し次世代に継承していくことが使命であることを肝に銘じ、会員の皆様と心一つにして農業農村整備の推進に努めてまいりますので、変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

結びに、皆様方のご多幸とご健勝をお祈り申し上げまして、私の新年の挨拶と致します。

## 新 年 に 当 た つ て

全国水土里ネット  
(全国土地改良事業団体連合会)  
会長 野中 広務



平成二十七年の年頭に当たり、全国の農業農村整備事業の推進に御尽力いただきております皆様に、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年末は衆議院議員選挙が行われ与党の大勝となり、慌ただしいままに補正予算や次年度予算の編成作業が越年することとなりました。農業農村整備事業に携わられる皆様には、何かと心休まらない年の瀬となったのではないかでしょうか。

改めて申し上げるまでもなく、農業・農村は国の大本であり、日本の豊かな国土や自然環境も、農業・農村が健全であって初めて維持されるものであります。このため、先人達は農業・農村が健全に発展していく上で、極めて重要な役割を担う農地や農業用水などの維持、更新に向け、献身的な努力を続けてきました。

最近は、気候変動により、全国各地に台風やゲリラ豪雨が襲来しておりますし、火山の噴火、地震等により甚大な被害も発生しております。災害に遭われた方々に対し、心からお見舞い申し上げますとともに、復旧にあたられた方々に対しまして、心から感謝申し上げます。

さらには、東日本大震災から三年十ヶ月が経ちますが、被災地では、一日も早い復旧・復興を望んでおります。

全国の農業・農村におきましては、過疎化、高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しています。また、昨年は減反政策からの転換に加え、コメの仮払金の低迷など、コメを巡る状況が一段と厳しさを増してきました。一方で、全国各地で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非主食米等への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと大変危惧しております。

さらには、TPP交渉においても、昨年内合意は見送られましたものの、引き続き国益をかけた厳しい調整が行われております。

こうした内外の厳しい情勢が続く中、政府におかれましては、農業・農村の所得倍増を目指すとともに、美しく伝統ある農山村の継承と食料自給率・自給力の向上に向け、「農林水産業・地域の活力創造プラン」を策定し、農地中間管理事業や日本型直接支払制度を積極的に展開されているところであります。また、我が国の国土を維持保全する観点から、「国土強靭化基本計画」を決定し、種々の施策も展開されています。

更に、昨年九月には、「まち・ひと・しごと創生本部」が立ち上げられ、石破大臣がご就任されて、地方を中心として人口急減・超高齢化が急速に進行していくという課題に対し、魅力あふれる地方を創生していくべく積極的に取り組まれております。

先の衆議院選挙では、与党の公約にも「農地の大区画化、汎用化、畠地かんがい等を加速化し、農業の生産性の向上、高付加価値化を図るため、農業農村整備事業を推進し

ます」と書いて頂いたところであります。

我々水土里ネット関係者としましては、こうした政府等の動きを重く受けとめ、その目指す方向に沿って、積極的な貢献を果たしていくことが必要と考えます。加えて、水土里ネットが農業・農村を守り、発展させていく役割の重要性・必要性についても、広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力も必要です。幸いにして、農地を集積し、経営規模を拡大することにより、新たな農業経営を展開すべく、全国各地で志の高い取り組みが見られるようになってきております。

地域の農業や農村が大きく変貌しつつある今、「水」「土」「里」を担う中核的な存在である水土里ネットが、長年培ってきた技術と経験を最大限に活用し、新たな地域農業を切り開き、国民の財産である農業・農村を守り、発展させていくことが重要であります。そのことによって、水土里ネットと農業・農村に対する国民の皆様の幅広い共感が得られ、施策が安定的に実行されるものと確信しております。

本日、輝かしい年の初めに当たり、私も改めて皆様とともに、これら農政の課題に積極的に取り組んで参りますことを、ここにお誓い申し上げたいと存じます。

本年が全国の皆様にとって良き年でありますように、御健勝と御発展を祈念いたしまして、私の新年の御挨拶と致します。



## 平成 26 年度 秋の叙勲受章者の紹介

平成 26 年 11 月 3 日に、総務省から秋の叙勲受章者が発表され、本県土地改良関係からは、国家または公共に対し勲積ある者に授与される旭日章に 2 氏が、国家または公共に対し積年の功労ある者に授与される瑞宝章に 1 氏が受章の栄に浴されました。ここに改めて、3 氏の受章に対しお祝い申し上げますとともに、今後一層のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

受章者の紹介は以下のとおりです。

### ☆ 旭日小綬章

#### 山下 昌利 様（元浜松市議会議員）

昭和 58 年から 25 年の長きにわたり浜松市議会議員として議長、農業委員会委員及び公害対策審議会委員等の要職を務められました。平成元年度から現在まで（平成 18 年度までは三方原用水土地改良区、平成 19 年度から改組して浜松土地改良区）土地改良区の理事として用水管理の運営にも尽力され、さらに、三方原用水水利組合協議会連合会長として末端利水者の指導に活躍されました。



山下 昌利 氏

### ☆ 旭日双光章

#### 大石 好昭 様（元金谷町長）

平成 14 年に旧金谷町長に就任以降、金谷土地改良区理事長の重責も担いながら町民の主導的な立場に立ち、卓越した行政手腕と強い責任感をもって町政の舵取りに貢献されました。特に、平成 17 年の島田市との合併後においては、旧金谷町民への行政サービスが低下しないよう、土地改良区理事長の立場から市政への協力に尽力されました。



大石 好昭 氏

### ☆ 瑞宝小綬章

#### 栗原 績 様（元県出納長）

昭和 42 年に本県の農業土木技術吏員に採用され、長年にわたり土地改良事業の推進に貢献されました。特に、本県特産のみかんや茶の樹園地に用水を供給する国営・県営土地改良事業の推進や、利水者が自ら渇水調整を行う全国に先駆けた水利調整協議会の立ち上げ等に尽力され、さらには、本県の環境部長、農業水産部長及び出納長の要職を歴任されました。



栗原 績 氏

## 平成 26 年度 静岡県農林水産業功労者表彰

平成 26 年 11 月 4 日に、県庁において標記の表彰式典が執り行われ、土地改良関係からは、個人の部では 1 氏が、集団の部では 1 団体が静岡県農林水産業振興会長の川勝平太静岡県知事から表彰を受け、受賞の栄に浴されました。ここに改めて、1 氏と 1 団体の受賞に対しお祝い申し上げますとともに、今後一層のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

受賞者の紹介は以下のとおりです。

## 【個人の部】

氏名	いくら てつお 伊倉 哲夫
生年月日	昭和 7 年 6 月 21 日 (82 歳)
主要経歴	元 御殿場かがやき土地改良区理事長
功績概要	多年、農業に従事する傍ら、生産性の向上や経営規模の拡大を図る県営経営体育成基盤整備事業の推進に尽力するとともに、同上土地改良区理事長として、地域農業の振興に貢献されました。



伊倉 哲夫 氏



御殿場かがやき土地改良区受益地の代掻き風景



磐田用水東部土地改良区永田理事長（左側）と長島事務局長（右側）



磐田用水東部土地改良区の学習会の様子

## 【団体の部】

団体名	いわたようすいとうぶとちかいりょうく 磐田用水東部土地改良区
設立年月日	昭和 25 年 11 月 27 日
団体概要	代表者 理事長 永田 勝美 主要事業 水利調整、農業施設の維持管理 規模 組合員数 4,730 名 受益面積 2,958ha (水田)
功績概要	昭和 25 年に設立され、多年、土地改良施設の維持管理や農業用水の安定供給に寄与する傍ら、「未来の土地改良区の姿」として、小学生向けの農業用水学習教室の開催や市民農園の開設による耕作放棄地の解消等の独創的な活動で、地域農業の振興に貢献されました。

## 第37回全国土地改良大会（山梨大会）の開催

平成26年10月30日（木）に、山梨県甲府市の山梨県立産業展示交流館（アイメッセ山梨）において、第37回全国土地改良大会（山梨大会）が、“富士の国やまなし発 かけがえのない農業を次世代へ 水土里育む土地改良”をテーマに、全国から約3,600名の農業農村整備事業関係者の参加を得て開催されました。

オープニングは、果樹王国山梨の美しい農村景観のビデオ上映による紹介があり、引き続いて、古典和太鼓の先駆者で世界的演奏者「天野宣と阿羅漢」の演奏が披露されました。

大会式典は、保坂山梨県土連副会長の開会宣言に始まり、国家斉唱の後、白倉山梨県土連会長の開催県挨拶、野中全土連会長の主催者挨拶、横内山梨県知事と棚本山梨県議会議長の歓迎の挨拶に続き、小泉農林水産副大臣の来賓祝辞がありました。

その後、土地改良事業功績者表彰が行われ、本県からは本会会長の伊東真英氏（中川土地改良区理事長）が農林水産大臣表彰、前副会長の望月良和氏が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受けられました。

続いて、小林農林水産省農村振興局次長の基調講演、岩手・宮城・福島の三県から東日本大震災復旧・復興状況の報告、山梨県内の土地改良事業優良事例地区の紹介がありました。

専門学校山梨県立農業大学校の生徒による大会宣言の後、最後に、次期開催県の青森県に大会旗が引き継がれ、次期開催地挨拶の後、田邊山梨県土連副会長の挨拶で閉会となりました。

本県からは17の市町並びに49の土地改良区等から総勢140名が参加し、大会の成功にご協力頂きました。後日、山梨県土地改良事業団体連合会からお礼の挨拶がありましたことを報告しますとともに、本会からも改めてお礼申し上げます。



全土連 野中会長の挨拶



本会会長 伊東 真英 氏（中央）



望月 良和 氏（左側）

## 県営畠地帯総合整備事業蒲原地区及び 県営基幹農道整備事業蒲原地区 完成式

平成 26 年 11 月 13 日（木）に、静岡市清水区蒲原地内の樹園地造成地において、県営畠地帯総合整備事業蒲原東地区・蒲原西地区、並びに県営基幹農道整備事業蒲原地区の完成式が行われました。

これまで、蒲原地域の農家は、狭小で急険な地形条件の下で、みかん栽培を主体とした厳しい農作業を強いられてきましたが、平成 7 年度から、生産性の向上及び経営規模の拡大、さらには担い手農家の育成を図ることを目的に、農作業の効率化や省力化を目指した大型機械の導入が可能な平坦で大区画の樹園地整備に着手しました。

具体的には、急傾斜で起伏の激しい樹園地を改良山成り工法を活用して平坦で大区画の樹園地に改良する「区画整理」、生産現場から流通ルートへの農産物等の搬出入の省力化を図る「農道整備」、農産物の增收と品質向上を図る「畠地かんがい施設整備」を実施し、平成 24 年度に蒲原東地区が、平成 25 年度には蒲原西地区が事業完了しました。

また、蒲原地域の山間部には南北の生活道路を東西に結ぶ幹線的な道路が無く、昔からの狭く急勾配な農道を利用した生産性の低い営農を余儀なくされてきました。

このため、平成 5 年度から、農産物や営農資材の輸送体系の改善を図るため、上記の樹園地整備と並行して基幹農道の整備に着手し、平成 25 年度には樹園地内を縦走する幹線農道が完成しました。

この静岡市清水区由比と富士市中之郷を結ぶ約 9km の路線開通は、地域農業を大きく蘇らせた農道の機能のみならず、静清庵地域の広域幹線道路として、更には、想定される東海・東南海地震等による被災時の緊急輸送路や迂回路としての機能も期待されています。



完成式の様子



東西を結ぶ幹線道路

### 【県営畠地帯総合整備事業 蒲原東地区 概要】

事業実施年度	平成 7 年度～平成 24 年度
総事業費	1,880,168 千円
受益面積	44ha
主要工事	農道 L=6,400m 区画整理 A=22.2ha 畠かん工 A=22.2ha

### 【県営畠地帯総合整備事業 蒲原西地区 概要】

事業実施年度	平成 7 年度～平成 25 年度
総事業費	1,758,000 千円
受益面積	40.4ha
主要工事	農道 L=4,300m 区画整理 A=14.2ha 畠かん工 A=14.2ha

### 【県営基幹農道整備事業 蒲原地区 概要】

事業実施年度	平成 5 年度～平成 25 年度
総事業費	2,089,500 千円 蒲原 1 期地区 892,700 千円 蒲原 2 期地区 354,200 千円 蒲原 3 期地区 842,600 千円
延長	3,371m
幅員	6.5m (車道幅員 5.5m)

## 水土里ネット静岡 活動報告等

### 農業農村整備の集い

平成 26 年 11 月 25 日（火）に、東京都千代田区平河町の砂防会館別館 1 階シェーンバッハ・サボーにおいて、全国の農業農村整備関係者約 800 名が一同に会し、現下の情勢を共有した上で、農業農村整備の一層の推進を図っていくことを目的に「農業農村整備の集い」が開催されました。

野中全土連会長の挨拶で始まり、小泉農林水産副大臣をはじめ石破地方創生担当大臣、二階自民党総務会長、稻田自民政調会長の祝辞、農林水産省からは三浦農村振興局長の情勢報告、秋田県大仙市の農事組合法人「たねっこ」及び兵庫県明石市江井ヶ島土地改良区の事例発表の後、国に対する 9 項目の要請と補正予算に係る緊急要請が採択され、ガンバロウ三唱で閉会しました。

本会からは、伊東会長、池田、大石両副会長をはじめ大井川・磐田用水東部・浜松土地改良区、JA 清水及び同管内土地改良区の関係者総勢 15 名に参加いただきました。



挨拶する石破地方創生担当大臣

#### 一要 請 書（要約版）一

- 1 現場のニーズに十分応えられる平成 27 年度予算を確保するとともに、防災・減災対策に対して重点的に措置すること。
- 2 食の安全安心を担い、多面的機能を発揮している農業・農村と農家の生産意欲に悪影響を及ぼす TPP の交渉は断固行わないこと。
- 3 食糧自給率の向上と担い手への農地集積の加速化を図る基盤整備をはじめとした対策は、国が責任をもって推進すること。
- 4 東日本大震災等の災害からの復旧・復興対策を加速的に進めること。
- 5 国土強靭化の考えに即し、老朽化した農業水利施設の保全整備や耐震化等の防災・減災対策を着実に推進すること。
- 6 多面的機能支払の推進に当たっては、十分な予算を確保すること。  
「農地・水管理支援交付金」の推進を担った地域協議会の位置づけを明確にすること。
- 7 小水力発電等を推進すること。電力会社で実施している系統接続の回答保留を早急に解除するよう働きかけること。
- 8 構造改革の推進に、水土里情報システムを活用すること。農地中間管理機構が担う農地集積が土地改良区が担ってきた水利施設の保全管理等に与える影響を最小限とすること。
- 9 今後とも土地改良区が施設の適切な維持管理を行えるよう、運営基盤の強化を図ること。

## 平成 27 年度 予算編成に対する要望活動

平成 26 年 11 月 26 日（水）に、本会並びに静岡県土地改良事業推進協議会は、平成 27 年度の農業農村整備事業予算の確保に向けて、県議会正副議長、難波副知事、高副知事、野知交通基盤部長、内田農業・農地連携担当理事並びに農地局幹部職員に対し提案・要望活動を行いました。

平成 27 年度に向け、農業を若い新規就農者が働く産業にする、農地を集積する、所得を確保する、という方向性を重視した取組を強化すべき内容と新たに取り組むべき内容について、下記の 4 項目にわたり要望書を提出しました。



多家県議会議長と伊藤県議会副議長への  
提案要望活動



難波副知事への提案要望活動

### 記

#### 1 「人」 施設管理を担う人材の育成

- (1) 基幹的な県営造成施設の県管理への移行と、施設管理研修の充実に向けての支援
- (2) 農地情報を電子化し整理した「静岡県水土里情報システム」への土地改良施設情報蓄積の一元化と、システムの積極的な活用

#### 2 「水」 農業水利施設の適切な保全管理の推進

- (1) 国営かんがい排水事業の大井川用水地区の早期完了、牧之原地区（特別監視型）と豊川用水二期地区の推進、三方原用水二期地区の新規着工についての必要な予算確保
- (2) 国営造成施設と、県営造成施設や末端施設の整備の進捗に跛行が生じないための計画的な整備の推進と予算の確保

#### 3 「土」 基盤整備を契機とした農地利用集積の促進

- (1) 農地集積機能を担う農地中間管理機構と基盤整備を担う本会が連携し、円滑な農地利用集積が図られるための樹園地整備に対する支援
- (2) 農地の出し手と受け手の双方にメリットとなる土地利用計画の策定や出し手農家の生業の確保等、集落機能の維持を図る支援

#### 4 「邑」 集落機能の維持と地域資源の保全

- (1) 多面的機能支払交付金制度を活用した農地の維持活動等に対する支援と予算確保
- (2) 「静岡県水土里情報システム」を活用したハザードマップの整備等による農業水利施設の保全・管理対策への支援

## 平成 26 年度 土地改良事業推進協議会西部地区合同研修会

平成 26 年 11 月 19 日 (水) に、中遠総合庁舎において、会員約 60 名の出席を得て土地改良事業推進協議会西部地区(志太榛原・中遠・西遠) 合同研修会が開催されました。

今回の研修には株村松商会取締役の小林氏を講師に招き、会員の意向に沿った “ポンプ場機器類等の日常点検整備” をテーマに、研修が行われました。

講義は、ポンプの点検整備の必要性やポンプ運転時の問題点等、講師の経験談を交えた内容が中心となり、活発な質疑応答が交わされました。

現地研修は、磐田原土地改良区が管理する磐田原第 16 揚水機場及び袋井市が管理する中新田排水機場の 2 機場において、実践的な研修を行いました。

圧力タンク方式とインバータ方式を併用した加圧ポンプの揚水機場の維持管理を実例に掲げ、費用をかけ過ぎない有効な保守点検についての考察が発表されました。また、実演を交えた排水機場の点検方法等の説明においては、日頃の運転管理に従事している出席者からは、洪水被害に直面した経験をもとにした質問が多く出されました。



中新田排水機場での研修

## 平成 26 年度 土地改良区等職員研修会及び土地改良施設管理技術者研修会

平成 26 年 12 月 4 日 (木)、5 日 (金) に、御殿場市の「御殿場高原ホテル」において、平成 26 年度土地改良区等職員研修会及び土地改良施設管理者技術研修会を開催しました。

この研修会は、例年、市町や土地改良区等の事務担当者を対象にした日常業務の円滑かつ適正な執行に資することを目的に開催していますが、本年度は、土地改良施設を管理する技術者を対象とした現場実務に資することを目的に加えた、業務全般にわたる研修を行いました。

研修会には市町、土地改良区等から役職員約 40 名が参加し、土地改良区等の会計事務の取扱いや個人情報の保護、公共工事の前払保証及び契約保証、農業用水利施設の補修等の講義を受けるとともに、東富士演習場周辺障害防止対策により整備中の抜川調節池（総容量約 643,000m<sup>3</sup>）の工事現場を見学しました。



抜川調節池の工事現場の見学

〔お知らせ〕

## 平成 26 年度 市町・土地改良区等代表者会議を開催します

平成 27 年 1 月 30 日（金）に、クーポール会館（静岡市）において、平成 26 年度市町・土地改良区等代表者会議を開催します。

この会議は、農業農村整備事業の施策や農業・農村における様々な取組み、農業情勢などを研修することを目的に、本年度は下記の内容を予定しています。

なお、本年度から開始された多面的機能支払い関係の報告を予定していますので、本会の会員のみならず、農村資源の保全管理に取り組む様々な活動組織からの参加をお待ちしています。

### —演題及び講演内容（予定）—

#### 1 報 告

演 題：「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」のねらい

講 演 者：農林水産省農村振興局農地資源課農地・水保全管理室長 野原 弘彦 氏

趣 旨：多面的機能支払等の取組を法制化したねらいは何か。

これまでの農地・水保全管理支払の何がどう変わるのか。

この支援（交付金）を受ける活動組織が果たすべき役割は何か。

今だから明かす制度設計時の苦労話。

#### 2 特別講演

演 題：日本で最も美しい村連合の取組

講演者：日本で最も美しい村連合常務理事 杉 一浩 氏

趣 旨：本連合の活動は欧州で始まった世界で最も美しい村運動をベースにしている

が、瑞穂の国日本が取り組む運動としての特徴は何か。

観光振興の目玉に世界遺産登録を利用する地域が多い中、この連合の活動は

小さいながらもオンリーワンな農山村づくりを目指していく必要がある。

農山村の美しい景観に恵まれている本県は、他県にない取組が期待できる。

多面的機能支払等の取組がきっかけとなるのでは。

#### 3 基調講演

演 題：静岡県の異常気象の特徴とその備え

講演者：日本気象予報士会静岡支部長、静岡地方気象台気象情報官

趣 旨：テレビ、ラジオ、インターネット等を通じて入手できる天気予報の正確さに感心するとともに、その解説も学術的ではあるが、理解しやすい。

本県における異常気象は、昭和 49 年に静岡市で発生した七夕豪雨や平成 26 年の台風 18 号の集中豪雨による洪水被害と、平成 6 年に天竜川水系で発生した異常渇水によるコメの不作等が思い出される。

今後、洪水や渇水がもたらす農業被害を最小限に止めるための備えは何か。

日常の避難訓練、正確な気象情報の取得、関係者との情報共有等。

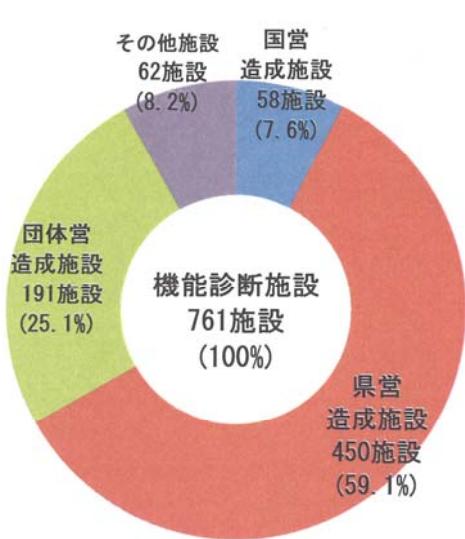
## 土地改良施設の定期機能診断業務の実施

本会では、末端受益面積10ha以上を有する761箇所の土地改良施設を対象に、概ね5年毎に機能診断調査を行い、施設管理者に対し結果の報告と必要な対策工事や維持管理に対する指導・助言を行っています。

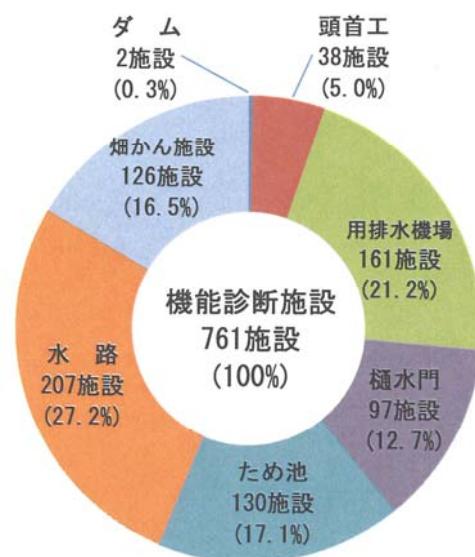
簡易な補修・修繕により整備が可能な施設については、土地改良施設維持管理適正化事業を活用し、大規模な改修を必要とする施設については、機能保全計画を策定の上、県営基幹農業用水施設機能保全向上対策事業を活用して更新整備を行うよう指導・助言を行っています。

土地改良施設の診断につきましては、企画管理課（施設管理担当）までお問合せください。

### － 造成主体別の施設数 －



### － 用途別の施設数 －



## 農業農村まめちしき

### 和 食

1年前の平成25年12月に「和食；日本人の伝統的な食文化」が、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

南北に長く、四季が明確な日本には多様で豊かな自然があり、そこで生まれた食文化もまた、これに寄り添うように育まれてきました。

このような、「自然を尊ぶ」という日本人の気質に基づいた「食」に関する「習わし」が評価されたものであります。

#### 「和食」の4つの特徴

- (1) 多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重
- (2) 栄養バランスに優れた健康的な食生活
- (3) 自然の美しさや季節の移ろいの表現
- (4) 正月などの年中行事との密接な関わり

## 行事予定（1月～3月）

開催時期	行事予定	開催場所
1月 30日	平成26年度 市町・土地改良区等代表者会議	クーポール会館
2月 2日	平成26年度 第2回 監事会	本会会議室
2月 5日	平成26年度 土地改良区基盤強化事業研修会【基礎コース】	茨城県水戸市
2月 12日	平成26年度 換地計画実務研修会【冬季】	静岡県教育会館
2月 17日	平成26年度 第2回 理事会	ペガサート
3月 中旬	平成28年度新規土地改良施設維持管理適正化事業の加入要望 締切	企画・管理課 提出
3月 24日	第58回 通常総会 並びに 土地改良功労者表彰式	ホテル センチュリー静岡
3月 下旬	第56回 全国土地改良事業団体連合会 通常総会 並びに 全国土地改良功労者表彰式	東京都内



**水土里ネット静岡** (静岡県土地改良事業団体連合会)

ホームページ <http://www.sizdoren.jp>

**本部事務局、総務課、企画・管理課、事業課**

〒 420-8601 静岡市葵区追手町9番6号  
 TEL (054) 255-5151 FAX (054) 221-3581  
 E-mail 総務課 soumu@sizdoren.jp  
 企画・管理課 企画広報 kikaku@sizdoren.jp  
 施設管理 shisetsu@sizdoren.jp  
 管理センター kanri-c@sizdoren.jp  
 事業課 jigyo@sizdoren.jp

**換地・測量課**

〒 422-8031 静岡市駿河区有明町2-20  
 TEL (054) 286-9273 FAX (054) 286-9274 E-mail kanchi@sizdoren.jp

**東部事業所**

〒 410-0055 沼津市高島本町1-3  
 TEL (055) 920-2269 FAX (055) 920-2192 E-mail toubu@sizdoren.jp

**西部事業所**

〒 438-0086 磐田市見付3599-4  
 TEL (0538) 37-2316 FAX (0538) 37-2403 E-mail seibu@sizdoren.jp